

## 第二回理事会報告 - 秋の運動方針決まる - 改憲の息の根を止めさせよう!

9月1日、第2回理事会が午前、午後を通して開催されました(33名参加)。安倍内閣は5月に国民投票法を成立させ3年後に憲法改正をと意気込み、参議院選の争点に掲げましたが、年金問題や「政治とカネ」の問題もからみ自民党は惨敗し、いまや、自民党の政権能力喪失は国民の前に明らかになりました。私たちの秋の取り組みは憲法改正の「息の根を止める」方向を一層鮮明にして運動する事にあります。

### < 報告と具体的な取り組み >

- 8月6日～15日の「戦争と平和を考える特別旬間」初めて行なう5地域を含めて展示会を中心に13地域で実施されました。はじめての「特別旬間」でしたが実施した所は「やっぱりやってよかった」もっと広げてやりたいという実感をもった。ほとんどの自治体が協力してくれ、来年はさらに多くの地域で実施することを申し合わせました。また展示するパネルが足りなくなるので手作りのパネルを作っていく事も検討していきます。
- 全市町村宣伝行動。9月15日～10月14日 7ブロックに分けて実施。
  - 各ブロックの常任理事・理事・役員で宣伝日時・宣伝地域の区分けなど検討します。
  - テープ・チラシ等は県事務局で用意。道路使用許可の費用は県で負担。ガソリン代は各ブロックで相談して決めてもらう。
  - 県北地域：10/8～23 2週間 県宣伝カー
  - 県央地域：9/22～28 県宣伝カー
  - 鹿行地域：潮来市職及び鹿行民商の宣伝カー
  - 県南地域1：9/29～10/5 県宣伝カー
  - 県南地域2：取手市職労宣伝カー
  - 県西地域1：結城市職宣伝カー
  - 県西地域2：境町職宣伝カー
- 「米軍機来るな、10・21学習集会」：「実行委員会」に提案し実施します。
  - 10月21日(日)午後2時～5時 於 県立青少年会館大ホール
  - 1部：講演「米軍と自衛隊の戦争訓練はここまでできている」 講師：新原 昭治氏(国際問題研究者)予定
  - 2部：「実行委員会」の取り組みについての討論
- 平和委員会内の「9条の会」関係者による交流集会
  - 11月3日(土)午前10時～午後4時 於 県立青少年会館
  - 前半は県内の9条の会の状況報告 後半は3つの分散会で討論。
  - 企画、運営等は事務局+数人で検討。
- 12月8日掲載の新聞意見広告
  - 掲載紙は読売・朝日・毎日・茨城等から事務局と代表理事で決める。
  - 目標賛同者数は団体100・個人1300とします。
- 07年平和大会学習パンフ：「10・21学習集会」に打って付けの学習パンフ。
  - 各平和委員会の注文制ですが、学習運動を進める上から大いに普及してください。
- 07年日本平和大会：11月23～25(日) 於 沖縄県那覇市 各平和委員会で代表をおくれるよう努力する。 以上

～日本国憲法施行60周年～

### 映画「日本の青空」 上映会

日時：9月29日(土) 10:30 14:00 18:00 (3回上映)  
場所：常陸大宮市文化センター小ホール  
前売券 一般：1200円・シニア・学生・障害者：1000円  
小中高生800円(当日は各200円増し)  
主催：映画「日本の青空」常陸大宮上映実行委員会  
後援：常陸大宮市、常陸大宮市教育委員会  
問い合わせ先：おおみや平和の会 小野瀬：0295-52-3677  
大曽根：52-2030  
実行委員会 切石：0295-53-2333  
山口：56-3747

## 「かすみがうら9条の会」が発足

8月5日(日)平和のつどいかすみがうら9条の会発足会に30名が集いました。



オープニングに土浦市在住の松本民菜さんのバイオリンと独唱・お母様のギター伴奏を聴きました。講演「世界に輝く憲法9条」丸山幸司弁護士の話聞いて、国民投票

法案が実施される2010年までの3年間、1000日の運動が、戦争をする国にするのか否かの決め手となる事を学びました。「憲法9条を守る」と云う一点で力を合わせ、一人でも多くの人に憲法9条のことを話して、学んで、9条があるから平和で暮らせることを広めて行こうと参加者で確認しあいました。

世論調査でも憲法9条が大事と思う人が増えてきているということです。

リレートークの中で、東京大空襲を体験された方の文を朗読、友人を特攻で沢山亡くした方の話も聴きました。

若い会員さんは、「今、反対しないで戦争が始まったときに後悔しても遅いです。子ども達のためにも平和な世界を作っていくことが大人の役目だと思います。」と力強い発言もありました。

(新日本婦人の会「かすみがうら支部だより」より)

## 平和かわら版

No. 480  
月3回発行  
2007.9.5

発行：茨城県平和委員会  
〒310-0912 水戸市見川5-127-281  
Tel/Fax 029-251-2806  
E-mail ibahei@amber.plala.or.jp



# 究極の「人間性」捨象の論理

全国障害者問題研究会茨城支部長（元茨城大学教授） 鈴木 宏哉



6万年以上も前、この地上に現代の人類と系譜のちがう人類・ネアンデルタール人が共存していた。イラクのある洞窟で、その埋葬された骨格化石が見つかった。骨格の様子から、障害をもった人だったらしい。遺体には花が添えられたのか、多量の花粉が発見されたという。この話はNHK番組「脳と心」からのもので、私は人間社会存立の必須条件である「人間の連帯」の発生を語るとき、よく借りる。

一方現代人の歴史は、戦争の歴史とも言われる。確かに、人類は戦争に明け暮れてきた。特に20世紀はまさに「戦争の世紀」だった。戦争は人間の本性に根ざすからだという。この論理の究極は、際限なく「人間性」を捨象するにある。つまり人間社会存立の必須条件である「人間の連帯」の否定である。「競争原理」もその亜流に入る。

戦争はもっとも大規模に、数知れない障害者を生み出す。明治以降の日本帝国は「国民皆兵」によって、障害者も有無を言わず戦争に動員した。兵士になれないものは「役立たず」の非国民として排除した。

私の友人清水寛氏は「日本帝国陸軍と精神障害兵士」（2007、不二出版）で、軍隊内部で見つかる多数の「弱兵」「異常兵」「不良兵」が、再教育、懲罰、隔離など、言語に絶する処遇を受け、さらに戦争に直面して発症する精神障害兵が、全く非人間的な「治療」を受け、放置されてきたことを、白日の下にさらした。

ベトナム戦争で大勢の障害児・者を生んだのは忘れがたい。同時に米軍兵士の戦争後遺症（PTSD）も続いている。戦争は戦死者にまさる数の障害者をつくる。

これらを、「現代人の本性」にもとづく必然として、甘んじて受容すべきことなのか。

第2次世界大戦は、現代の戦争について有り余るほどの教訓を、全世界に提供した。最後の敗北者となった日本は、幸いにもこの教訓をもっともまともに、憲法の理念の根底におく機会を得た。その後国連を中心として、全人類的な人間性の尊重と戦争とは相容れない原理であることを、「世界人権

宣言」をはじめ数々の宣言や条約で明示してきた。障害者については、昨年「障害者権利条約」を採択した。日本国憲法に盛られた民主的規範が、いまや世界各国に共通の理念として、謳われつつある。日本の障害者は、憲法のもと「ひとしく人間としての尊厳をもつ」ことを、一つ一つ実体化してきた。だが「障害者自立支援法」で導入された「応益負担」の基底にある「新自由主義」=人間の競争原理によって、「等しく人間としての尊厳」さえも脅かされている。いまでは、国際的な共通概念となった「障害者の権利」を、この国でどのように守るかが問われ始めている。

6万年前の化石人類が持ち合わせた人間らしさを、この日本で再度失う不名誉を残してはならない。

## 学習パンフレット紹介

なぜ・・・基地を強化するのですか？

なぜ・・・憲法を変えるのですか？

アメリカの世界戦略と日米同盟、自衛隊・改憲の推進者の動き、基地撤去・憲法9条を守れ運動の紹介、日米軍事同盟打破、基地撤去2007年日本平和大会への参加よびかけを、多くの具体的な資料を使って纏められている最新の学習パンフレットです。

**「憲法9条 輝く日本へ」**  
 ~考えよう 日米同盟と日本の未来~  
 1部250円（内100円還元）  
 日米軍事同盟打破、基地撤去2007年日本平和大会実行委員会編

申し込みは 県平和委員会事務局まで  
〆切 9月20日

## 書籍紹介

### 「慟哭の大地」

#### 第13次興安東京開拓団の最後

東海村平和委員会元会員 富満 てい子著

東海村平和委員会 加藤 岑生

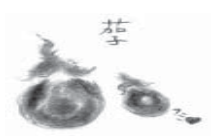
「私は叫びたい。国家とは何だったのか。国策によって私たちの開拓団は結成され入植した。8月9日未明にソ満国境を侵攻したソ連軍と呼応した現地の反日軍人・蜂起人民や暴民によって、一夜の花火のように東京開拓団は消滅してしまった。」

昭和19年4月に家族6人が入植地に全員が揃ったのもつかの間、一年余りの後には800名の逃避行。そして、麻畑の中で祖母、継母を含め集団自決。生き残りの家族が次の日には本人を残し射殺され残された。過酷で悲惨な中、中国孤児として、帰国後の日本で力強く生き抜いた数奇な運命を綴ったものである。

私は前々から映画「蒼い記憶」上映運動のおりお話を聞かせていただき早く書き残してくださいとお願いしていました。13年たってようやく本になりました。手にして半日で一気に読まさせていただきました。

日頃、ニコニコした笑顔の裏にこの様な人生があったのだと。感想の言葉も出ないほどでした。このような悲劇が起こらないように平和憲法9条を守る決意を固くした本でした。

是非、機会がありましたら手にして一読をお勧めいたします。



**事務局便り**

参院選、自民大敗・引き続き閣僚辞任・「天高く憲法守る秋」九月一日第二回理事会が三十三名の参加で開かれる・定刻十時開会・昼食・DVD鑑賞・四時終了・秋の取り組みを「改憲を二度と口に出させない」運動にしようとかつてない充実した理事会だった・  
 これ自画自賛？  
 （だ）